

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス こども通所サービス にじいる (児発)				公表日	2026年 2月 25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		指定基準に基づいた広さが確保されている。	安全に活動できるようにスペースの確保、工夫をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		利用状況に応じて職員を増やし対応することと適切な支援が行えるようにしている。	子どもの人数や状況によって職員間で連携をとって、対応できやすくする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		利用者の立場になって数字やイラストをわかりやすく表示する等の見直しを心掛けている。	特性に配慮し、指示が通りやすい工夫を続ける。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		主に活動する場所と落ち着いて弁当を食べる場所が分けられていることで生活のリズムがこどもにわかりやすく配慮されている。	職員全員が衛生管理のチェック表に基づいて、清潔を常に心がける。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		気持ちが落ち着かない時は自分から部屋の隅を使いに行ったり、仕切りの向こうで職員と1対1で過ごせたりしている。	職員が声を掛け合い、臨機応変に対応できるようにする。
業務 改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		定期的なミーティングで職員間の意見交換を行い、情報共有や目標設定の見直しを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価表により、職員間で話し合う機会となり問題点の把握、改善ができた。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日の保育の後や普段のミーティングでも、気づいたことを伝えることが出来ている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		当法人の理事、社労士等からの意見や、特別支援学校の元校長、病院等からの評価を活用している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		小児科医師、元支援学校長、児童心理司による職員向け研修会を必ず開催している。	各委員会（感染症対策、虐待防止委員会など）から研修に参加し、職員全員に周知徹底をする。
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		保護者の主訴を聞き、子どもに関わる支援者の意見を基にした支援計画となるよう努めている。	成長と共に変化する個々の課題を支援計画会議で確認できるようにする。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援計画支援者会議の場でそれぞれの意見を交換し共通の認識が持てるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		子どもの発達や課題について日々の姿から、フィードバックを行い職員同士が同じ方向性で関わることを大切にしている。	活動前後のミーティングをこれからも大事にする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		モニタリングや発達検査などで得たそれぞれの課題を伝え合い情報を共有するよう心掛けている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		支援項目に「本人支援」「家族支援」「移行支援」について必ず記載し、具体的な支援内容を考えている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員が得た情報をすぐに共有して、ここでできる活動にするために職員で意見を交換している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		固定化されないように、こどもたちの興味や発達に応じて運動・感覚・制作いろんな活動プログラムを工夫している。	季節や子どもの興味に応じた内容などを取り入れたような活動ができるように工夫を続ける。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		子どもの年齢や発達に応じて個別活動と集団活動を行うようにしている。	個別で支援が必要な課題、集団の中で育てる課題を今後も職員で考える。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎回、必ずミーティングを行い、支援内容、活動の確認を行っている。	協力して時間を作る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		日々の振り返りを大切にして個々の育ちや課題について、職員間で意見を交換したり確かめ合ったり次に生かせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		多様な方面から日報をつけ、検証・改善につなげるようにしている。	なるべくすぐに振り返りやヒヤリハットなど報告書類の記入する時間を作る。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		子どもの育ちや保護者の願い、事業所の支援内容などについて、保護者から伺ったり伝えたりすることで、互いに育ちを実感し、次への課題に向かえるようにすることを大切にしている。	モニタリング予定表を作成し、適切な見直しが可能が時期にできるようにしている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管や主任が必ず出席するよう心掛けている。	これからも時間を調整する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		必要時は連絡を取り合うことや訪問をし合うなどの体制をとっている。	日頃から連絡を取り合い、常に新しい情報共有ができるようにする。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		子どもが地域で安心して暮らせるよう夏まつりや運動会を企画し地域の人々との繋がり場の提供している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		就園・就学先と子どもの発達特性や支援内容等について情報共有を行っている。	実際に見学の機会を作る。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		必要なら、作業療法士、言語聴覚士など専門の先生に相談できるセンターの療育支援事業を利用している。	今後も連携し、必要なら登所していただき助言を受けたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		戸外活動で地域の幼稚園の園庭を利用してもらい園児と交流できる機会がある。地域の小学校での合同避難訓練に参加している。	現在交流のない保育園や幼稚園とも交流できるようにしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		毎回、健康状態を連絡帳に記入していただき、また事業所での様子を職員が記入している、また送迎時に直接、活動の様子や家庭での様子を伝えあえることを大切にしている。	保護者の心配や気持ちのちょっとした変化に気付けるよう心掛ける。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		保護者向けのペアレントトレーニング講座や、保護者会(就園前、就学前)、虹色カフェでは小児科医や児童心理司の相談会や講演会を実施している。	虹色カフェやペアレントトレーニング講座の周知に努める。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時だけでなく、必要と感じた時に説明するようにしている。	わかりやすく丁寧に説明する。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		モニタリングで保護者の思いを聞いて支援計画に反映している。	支援者の押し付けにならないように今後も努める。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		一緒に確認しながら説明し同意を得る時間を持っている。	説明は一方向的にならないように今後も努める。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		日頃の送り迎え、保護者会などいろいろな機会を促しながら、必要な場合には個別の相談の場を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		保護者会では保護者同士が語り合える機会を設けている。	きょうだい同士で交流できる機会を考えていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		いつでも相談できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		法人のHPで虹色カフェやペアレントトレーニング講座、夏まつりや運動会の行事予定を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の取り扱いについて書類で説明し同意を得ている。書類等は、鍵付き書庫にて保管。職員全員に徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		お手紙や視覚支援を用いてわかりやすくそれぞれに適した情報伝達を工夫している。	これからもそれぞれに合った方法で伝えることに努める。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		地域のおはなし会グループの方に活動に参加して頂く機会を設けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルを作成している。各委員会が研修を受け、職員に訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		業務継続計画を策定し、職員全員に周知徹底し、必要な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時や面談時にこどもの通院、服薬、持病の有無について聞き取りをしている。	定期的に子どもの持病の状況について、確認をする。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーについては保護者から聞き取りをし、必要なら医師の指示書を提出してもらう。	放課後のおやつ提供について、今後も職員全員で確認する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を作成し、こどもの安全を第一に考えて訓練している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		訓練内容を保護者に伝え、共通理解ができるようにしている。	取り組みについて送迎時に伝えたり、掲示する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		活動後に事業所内で必ず共有し、検討内容を記録している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員会を設置し、職員の研修会を行っている。	職員の意識の向上に努める。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		必要な時は保護者に説明し了解を得て、支援計画書に記載する。		